

平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ>IV 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ

1 学校生活

- 「友達に会うのは楽しい」及び「学校で落ち着いて勉強することができる」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに全体の9割を越えている。[図1][図3]
- 全ての学年において、「友達と会うのは楽しい」、「落ち着いて勉強することができる」と回答している児童生徒ほど、平均正答率が高くなっている。[図2][図4]
- 「教科の勉強が好きだ」と感じている児童生徒の割合は、国語の小学6年生、中学3年生、算数・数学の小学6年生において増加している。[図5][図6]

ここでは、児童生徒の学校生活についての調査結果を述べる。具体的には、学校生活の楽しさや学習状況の設問について分析した。

ア 「友達に会うのは楽しい」について

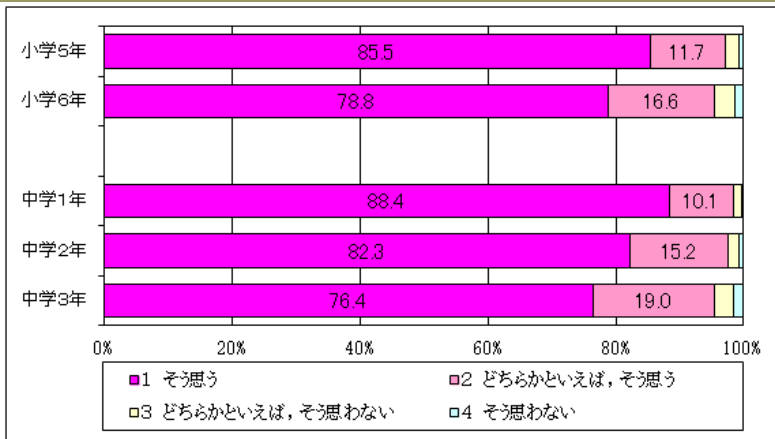


図1 「友達に会うのは楽しい」の回答の割合

「そう思う」と回答した児童生徒の割合は、小学5年85.5%、小学6年78.8%、中学1年88.4%、中学2年82.3%、中学3年76.4%となっている。「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合を合わせると、小学生、中学生ともに、どの学年も9割を越えている。特に、中学1年では98.5%と最も高い割合である。[図1]

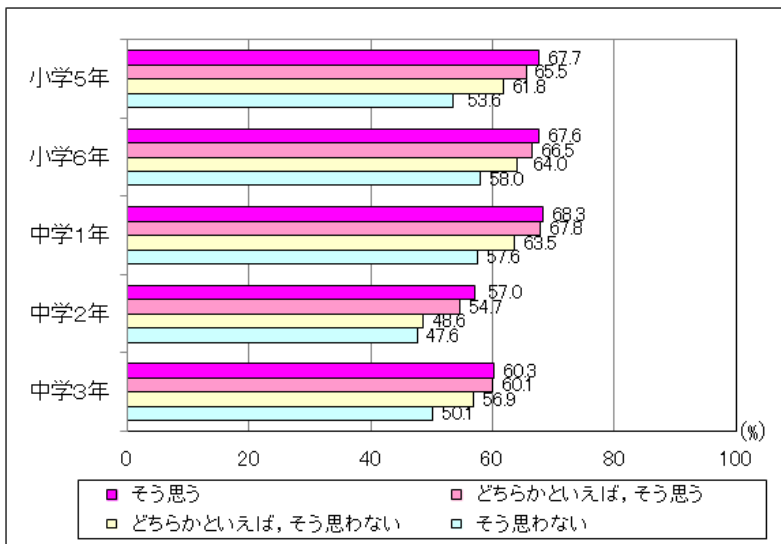


図2 「友達に会うのは楽しい」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、全ての学年において、「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。「友達と会うのが楽しい」と回答した児童生徒ほど、平均正答率が高くなっている。[図2]

イ 「学校では落ち着いて勉強することができる」について

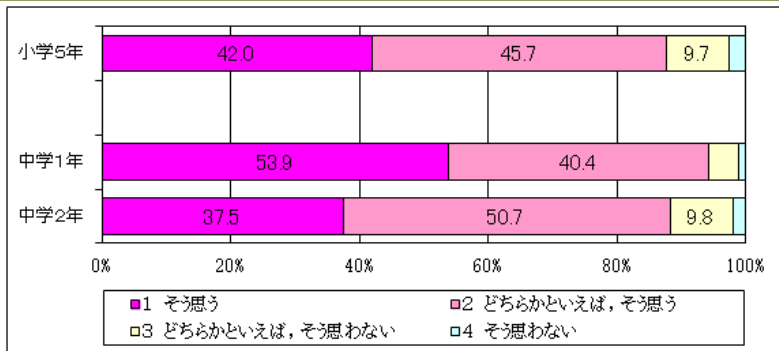


図3 「学校では落ち着いて勉強することができる」の回答の割合

「そう思う」と回答した児童生徒の割合は、小学5年42.0%、中学1年53.9%、中学2年37.5%となっている。「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合を合わせると、小学5年では87.7%、中学1年では94.3%、中学2年では88.2%である。中学1年では94.3%と最も高い割合である。[図3]

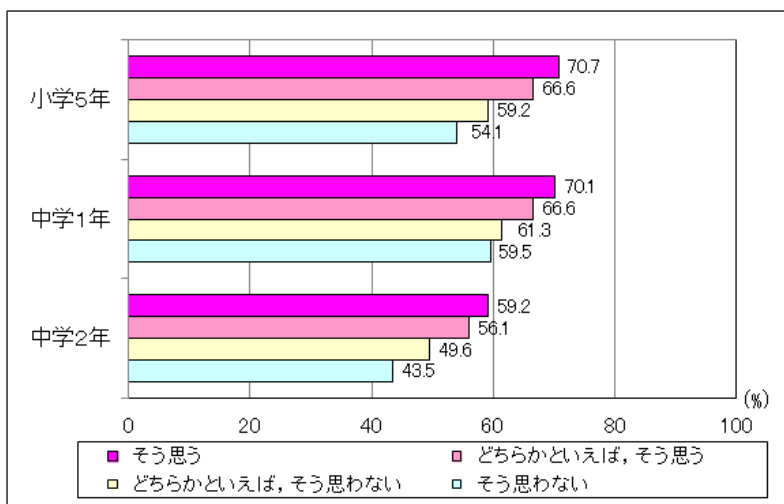


図4 「学校では落ち着いて勉強することができる」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、全ての学年において「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。「落ち着いて勉強することができる」と回答した児童生徒ほど、平均正答率が高くなっている。[図4]

ウ 「教科の勉強が好きだ」について

① 国語について

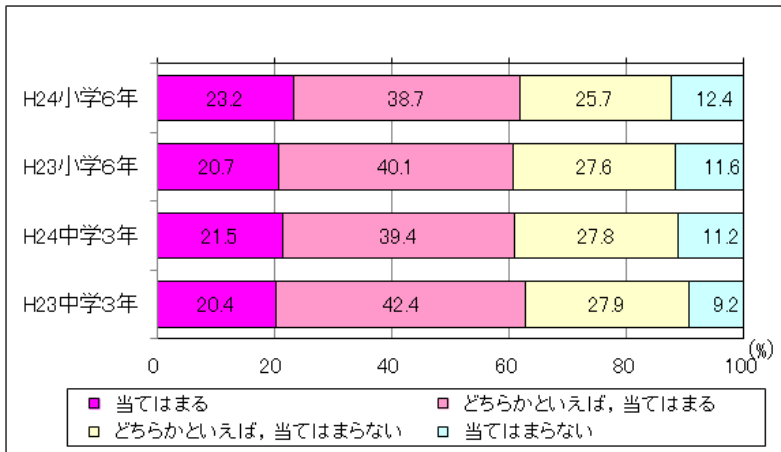


図5 「国語の勉強は好きだ」の回答の割合

平成24年度の小学6年における「当てはまる」の割合は、2.5ポイント増えている。中学3年においても「当てはまる」の割合は1.1ポイント増えているが大きな変化は見られない。平成23年度では「教科の勉強が好きだ」との回答が減っているという課題があった。そのことを考慮すると、今後も指導改善が必要となってくる。【図5】

② 算数について

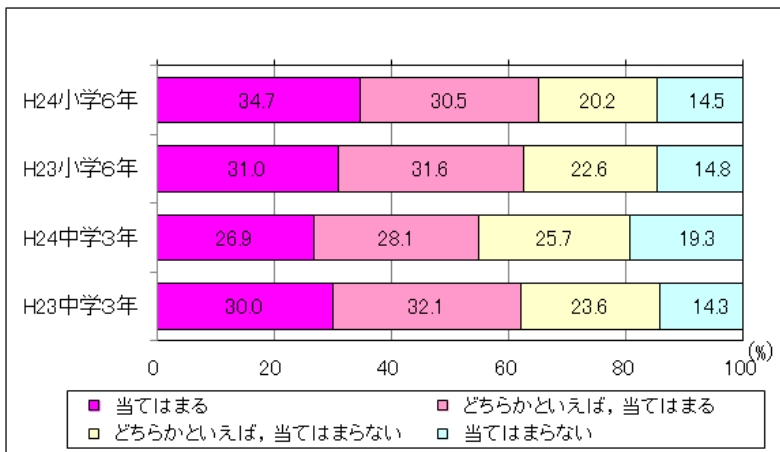


図6 「算数・数学の勉強は好きだ」の回答の割合

小学6年生においては、「当てはまる」の割合が3.7ポイント増えている。しかし、中学3年生においては、「当てはまる」の割合が3.1ポイント減っている。そのことからすれば、中学3年生においては指導改善が必要となってくる。【図6】

○ これからの指導に向けて

「友達に会うことの楽しさ」や「落ち着いた学習への取り組み」について「そう思う」と回答した児童の平均正答率が最も高くなっている。このことから、友達に会ったり、落ち着いて学習できたりするなどの学級づくりと学力の定着については関係があると考えられる。クラスが落ち着き、友達どうしが互いに認め合ったり、励まし合ったりしていくことで学習への意欲も高まっていくことが考えられる。そのため、学級経営を基盤とした授業づくりが必要である。平成24年度の「国語の学習は好きだ」においては「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答率が増加したが大きな変化は見られなかった。算数・数学においては、小学6年と中学3年を比較すると、中学3年になると好きな教科が減っていくという結果がでている。理由として学習内容が増えることや難易度が上がることが挙げられる。好きな教科がある児童の平均正答率が最も高くなっているため、教科を好きになるような指導を考えていくことが大切である。

最終更新日: 2012-10-15

平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ>IV 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ

2 学習動機

- 「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒は、小学校で8割を超えている。しかし、中学校3年では7割を越えるほどとなる。学年が上がるごとにその割合は減少している。[図1]。

ここでは、「将来の夢や目標をもっているか」という設問を通して、児童生徒の将来に対する意識と全教科平均正答率との関連についての調査結果を述べる。

ア「将来の夢や目標をもっている」について

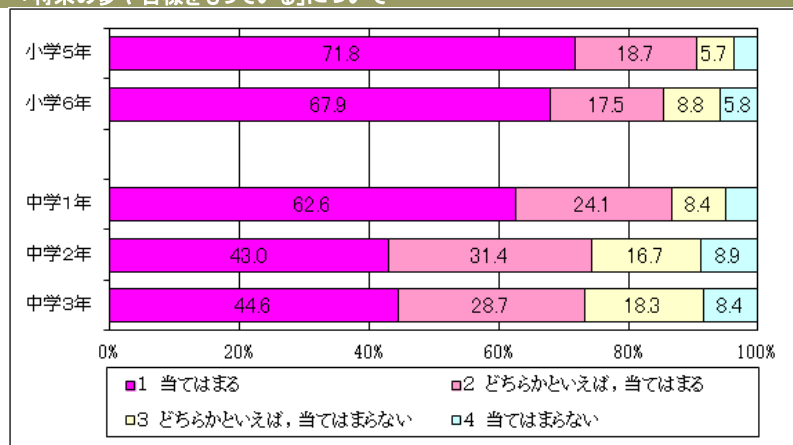


図1 「将来の夢や目標をもっている」の回答状況

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が小学5年71.8%、小学6年67.9%、中学1年62.6%、中学2年43.0%、中学3年44.6%となっている。「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合を合わせると、小学校では80%を、中学校では70%を上回っている。全体として、学年が上がるにしたがって、「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒の割合が低くなっている。[図1]

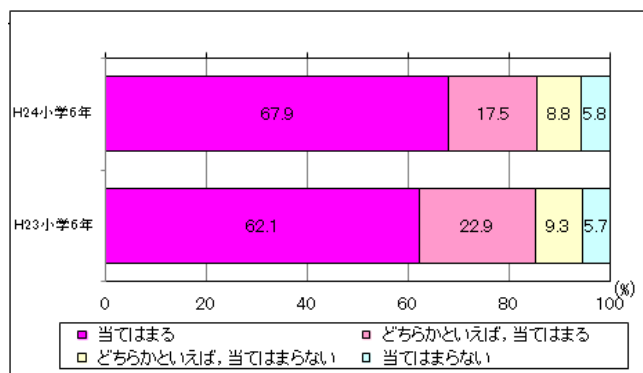


図2-1「将来の夢や目標をもっている」の小学6年の経年比較

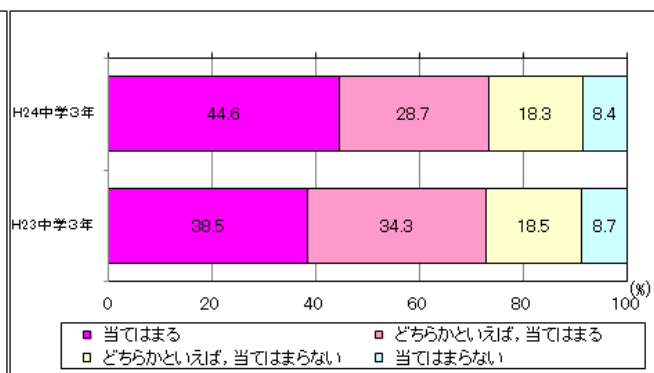


図2-2「将来の夢や目標をもっている」の中学3年の経年比較

小学6年と中学3年における「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、平成23年度と比べると、増えている。しかし、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合を合わせて比べると、大きな変化は見られない。[図2-1][図2-2]

○ これからの指導に向けて

「将来の夢をもつ」と学習意欲には大きな関係があると考えられる。なぜなら、将来の夢を持つことで将来への見通しが明確となり、学習意欲が高まっていくと考えられるからである。夢をもたせることは、教科だけでなくキャリア教育や特別活動など学校教育全体で取り組むことが大切である。しかし、現状の学習と将来の夢についての関係があいまいになることで学習意欲が低くなる児童、生徒が出てくることも考えられる。そのため、現状の学習が将来のためにどのように役立っていくのか、あるいはつながっていくのかを実感させていくような支援を考えていくことが大切である。

最終更新日：2012-10-15

平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

[Web報告書もくじ](#)>IV 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析

[児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ](#)

3 学習活動(教科全般)

- 学年が上がるにつれて、話し合う活動をよく行っていると思う生徒の割合が減り、自分の考えを表現することが難しいと思う生徒の割合が増えている。[図1][図2][図3][図4]

ここでは、授業中に「話し合う活動をよく行っているか」「他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思うか」という設問を通して、平成23年度と平成24年度の児童生徒の経年比較(同一学年及び同一児童生徒)の授業中における表現活動に関する意識の状況と、平成24年度の回答状況と全教科平均正答率との関連について調査結果を述べる。

ア 「普通の授業では、児童(生徒)の間で話し合う活動をよく行っていると思う」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

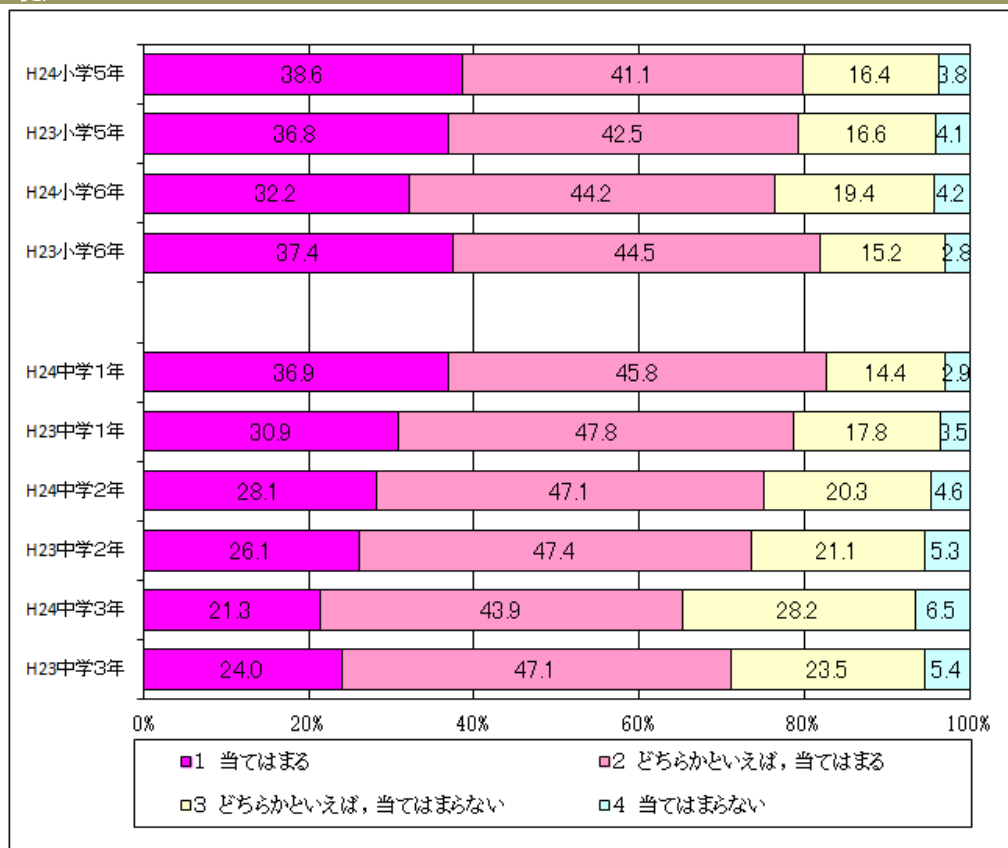


図1 「授業では、話し合う活動をよく行っていると思う」の回答状況の経年比較

小学5年から小学6年、中学1年から中学3年と学年が上がるごとに、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が減っていた。同一学年の経年比較では、小学5年、中学1年、中学2年において、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合が増えていた。同一児童生徒の経年比較では、小学6年から中学3年までは、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が減っていた。[図1]

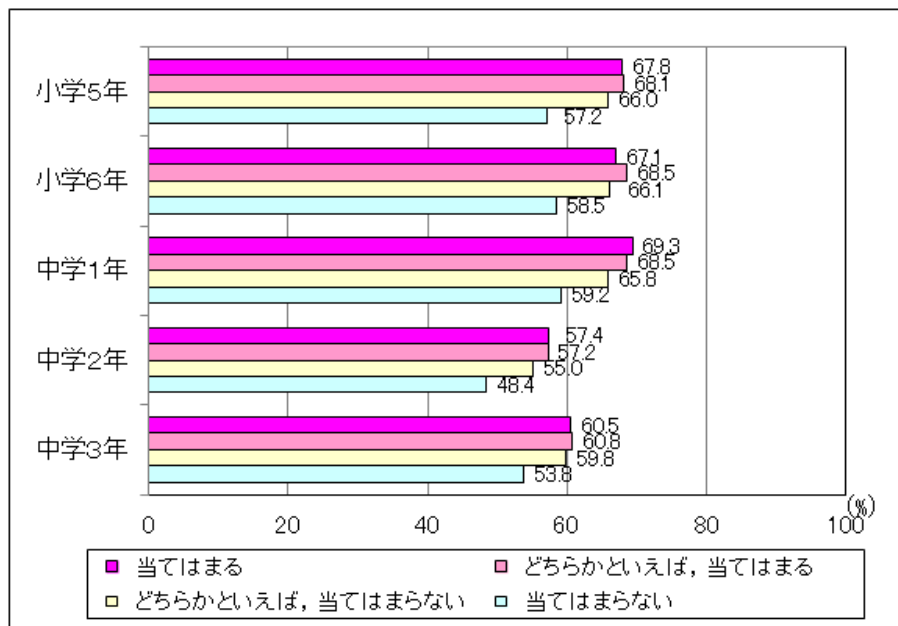


図2 「授業では、話し合う活動をよく行っていると思う」の回答状況と平成24年度の全教科平均正答率

「授業では、話し合う活動をよく行っていると思う」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率との関連を見ると、明確な関連は見られないが、全ての学年に共通して、授業でよく話し合う活動を行っていると思うことに対し、「当てはまらない」と回答している児童生徒の平均正答率は、他の回答をした児童生徒に比べ、低くなっていた。[図2]

イ 「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

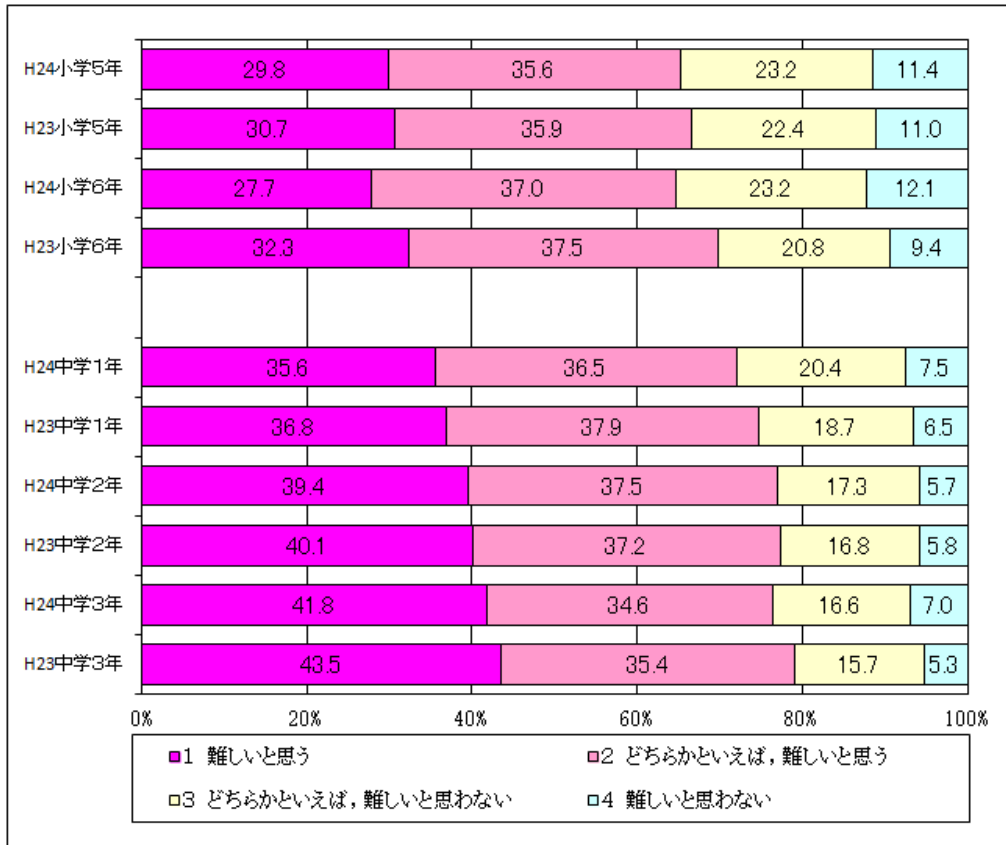


図3 「授業などで、自分の考えを表現するのは難しい」の回答状況の経年比較

中学1年から中学3年まで、学年が上がるごとに、「難しいと思う」と回答した生徒の割合が増えていた。しかし、同一学年の経年比較では、全ての学年で「難しいと思う」と回答した児童生徒の割合は減っていた。同一児童生徒の経年比較では、中学校の全学年において、「難しいと思う」と回答した生徒の割合が増えており、自分の考えを表現するのが難しいと思う中学生の割合が増える傾向にある。[図3]

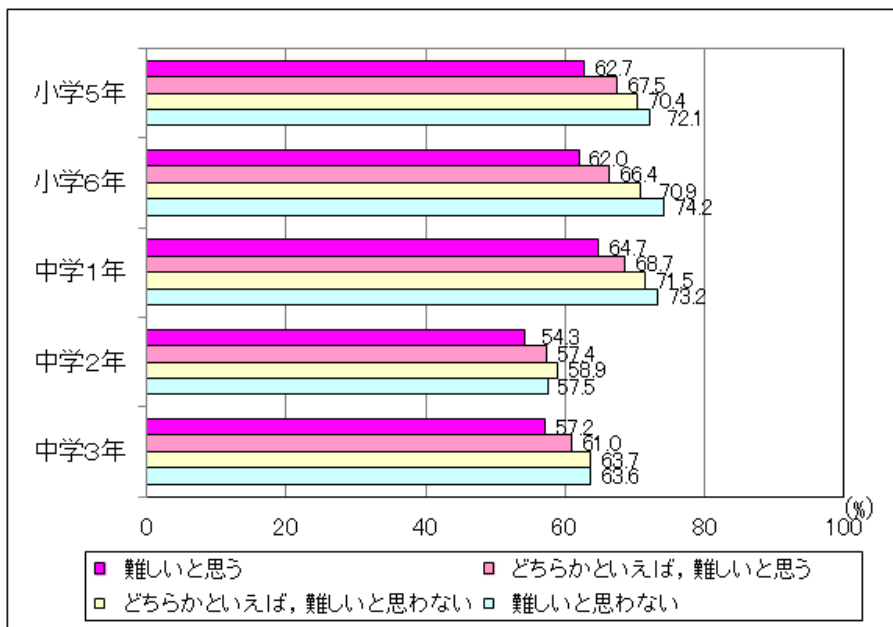


図4 「授業などで、自分の考えを表現するのは難しい」の回答状況と平成24年度の全教科平均正答率

「授業などで、自分の考えを表現するのは難しい」の回答状況と全教科平均正答率との関連から、学年を問わず「難しいと思う」と回答した児童生徒の平均正答率が最も低くなっている。小学5年、小学6年、中学1年については、「難しいと思わない」「どちらかといえば、難しいと思わない」と回答している児童生徒ほど、平均正答率が高くなっている。[図4]

○ これからの指導に向けて

児童生徒の意識調査の経年比較と教科平均正答率の結果より、毎日の授業の中で、最低1回は自分の考えをかく時間と書いたものを説明する時間を必ず確保することが大切であると考え。自分の考えを説明したり、文章にかいたりすることが難しいと思っている児童生徒に対しては、選択式を取り入れたり、グループ活動を取り入れたりして自分の思いや考えを表現する場のハードルを低く設定し、選択した理由についても説明させることで自分の思いや考えを表現することに慣れさせる必要があると考える。

最終更新日：2012-10-15

平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ> IV 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ

4 家庭学習

- 1日あたりの学習時間については、平成23年度と平成24年度の児童生徒共に同程度であり、学習時間が増えてないのが現状である。[図1][図2][図3][図4]
- 自分で計画を立てて勉強する生徒、特に、学校の宿題、予習や復習をしている児童生徒ほど全教科平均正答率が高くなっている。[図5][図6][図7][図8][図9][図10][図11][図12]

ここでは、児童生徒の家庭学習についての調査結果について述べる。具体的には、家庭学習の時間と学習の内容や仕方について、平成23年度と平成24年度の経年比較(同一学年及び同一児童生徒)と、平成24年度の回答の状況と全教科平均正答率との関連について述べる。

ア 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

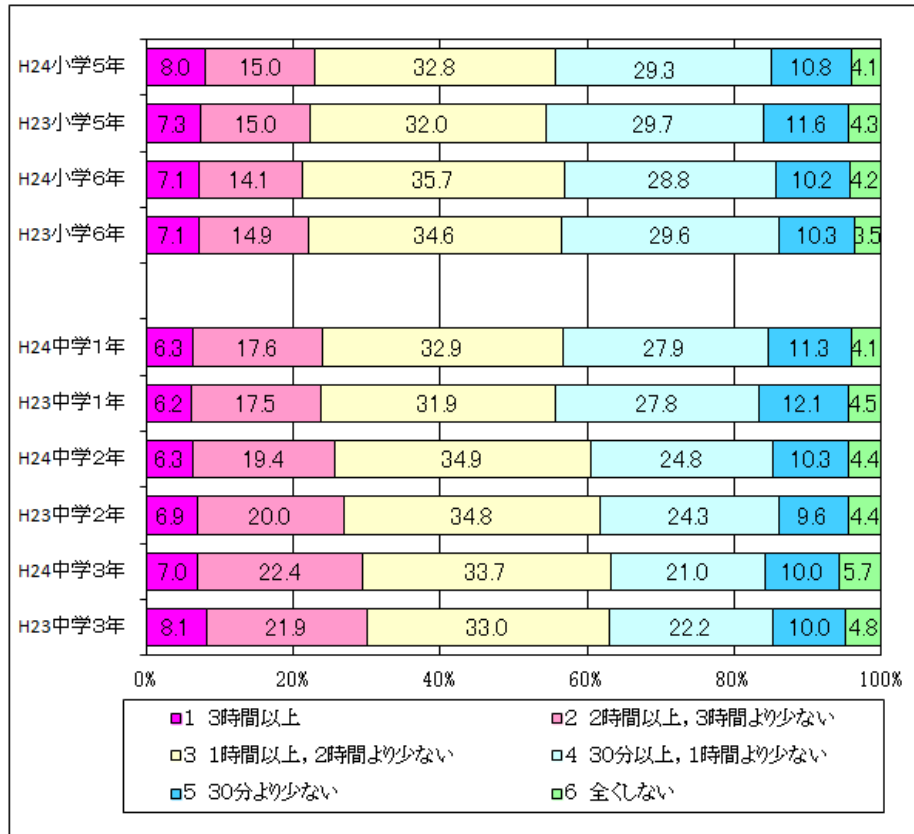


図1 「普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答状況の経年比較

学習時間については、中学校においては、学年が上がるごとに増加する傾向が見られる。同一学年の経年比較については、「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童生徒の割合は、小学5年と中学1年は増えていた。1時間以上していると回答した児童生徒の割合は、小学5年、小学6年、中学1年、中学3年は増えていた。全学年において1時間より少ないと答えた児童生徒の割合は、平成23年度同様に4割程度となった。同一児童生徒の経年比較については、1時間以上していると回答した児童生徒の割合は、小学6年から中学校3年まで増えていた。[図1]

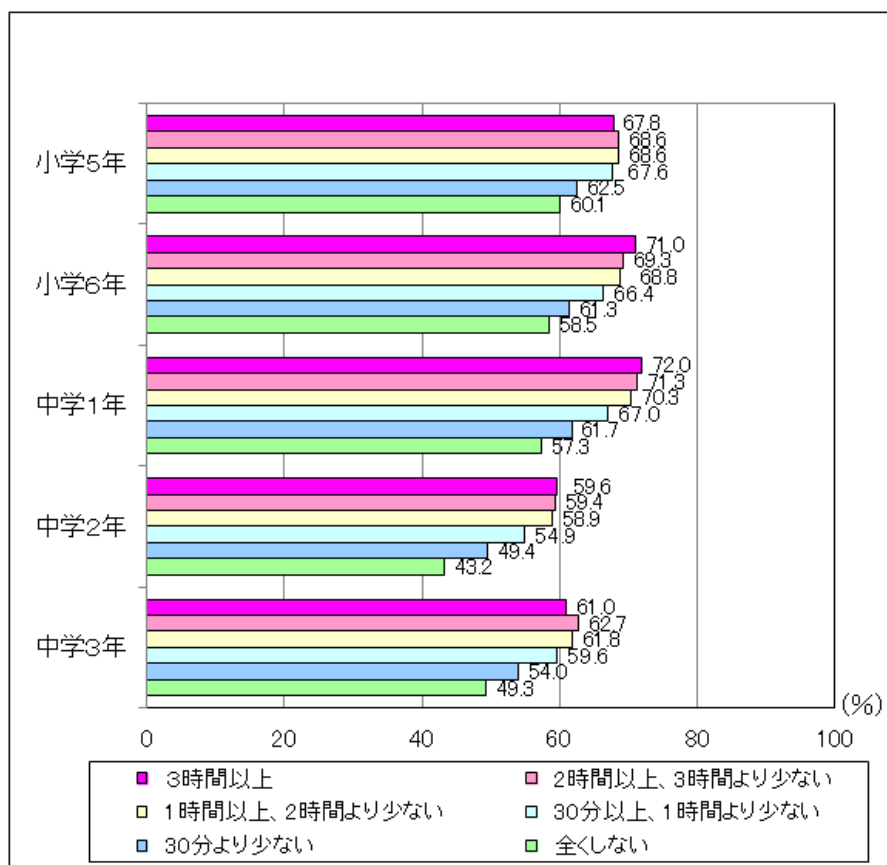


図2 「普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答状況と
平成24年度全教科平均正答率

「普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答状況と平成24年度の全教科平均正答率との関連から、小学6年、中学1年、中学2年については、勉強する時間が長い児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。[図2]

イ 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

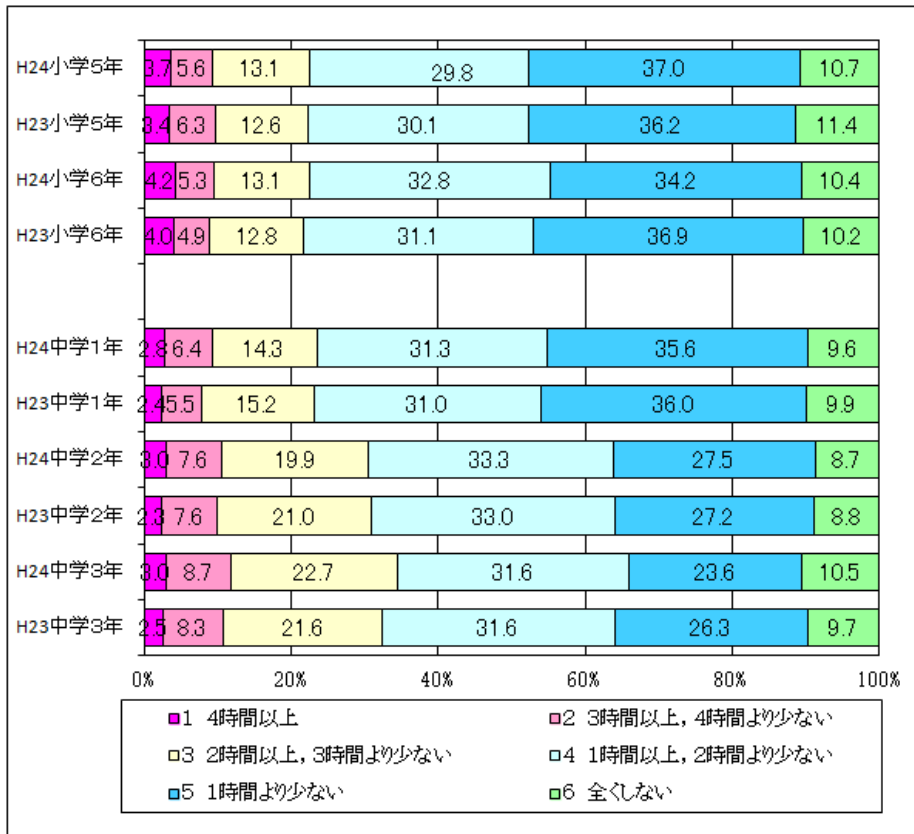


図3 「休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答状況の経年比較

2時間以上していると回答した児童生徒の割合は、学年が上がるごとに増えている。同一学年の経年比較については、2時間以上していると回答した児童生徒の割合が、小学6年、中学1年、中学3年が増えていた。全学年において、1時間より少ないと回答した児童生徒の割合は、平成23年度同様に3割から4割程度となった。同一児童生徒の経年比較については、2時間以上または1時間以上していると回答した児童生徒の割合は、小学6年から中学校3年まで増えていた。[図3]

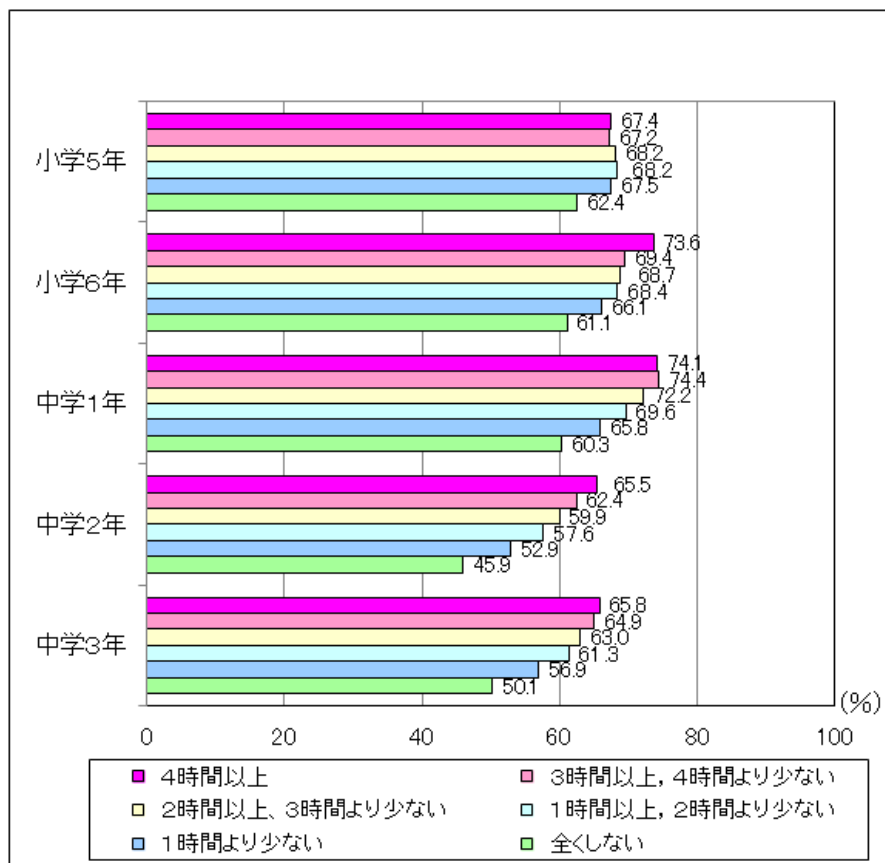


図4 「学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率

「学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答状況と平成24年度の全教科平均正答率との関連から、小学6年生、中学2年生、中学3年生については、勉強時間が長ければ長いほど平均正答率が高くなっている。[図4]

ウ 「自分で計画を立てて勉強している」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

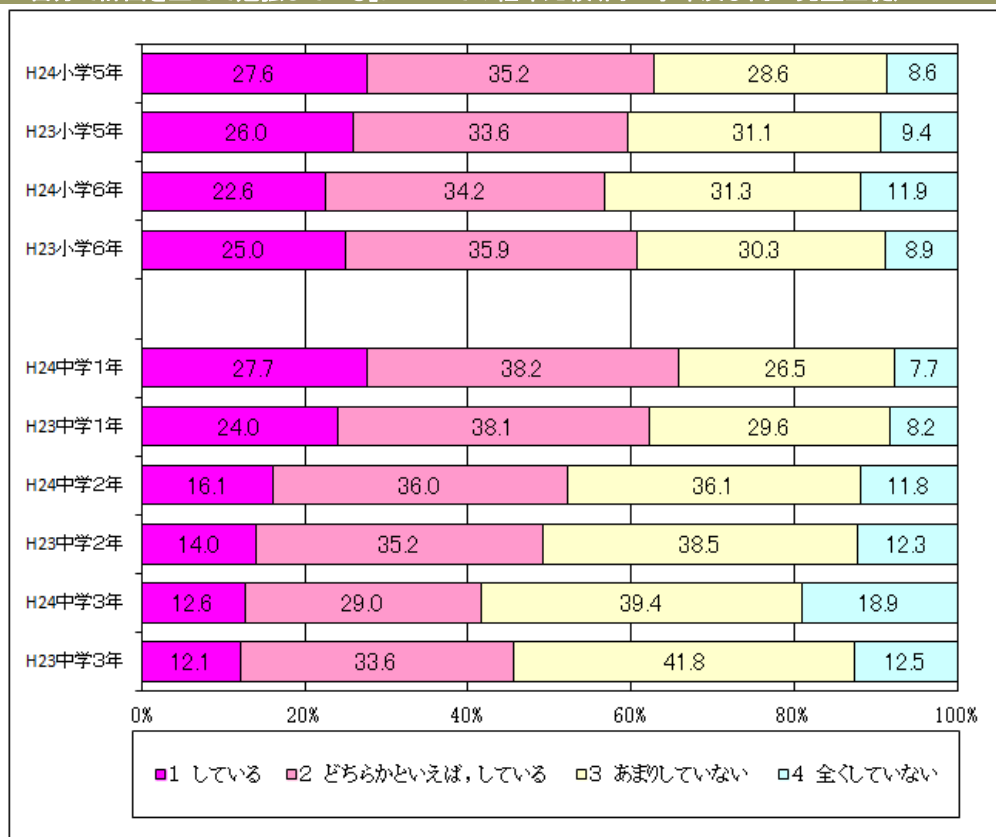


図5 「自分で計画を立てて勉強している」の回答状況の経年比較

小学5年から小学6年、中学1年から中学3年と学年が上がるごとに、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合が減っていた。同一学年の経年比較については、小学5年、中学1年、中学2年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合が増えていた。同一児童生徒の経年比較については、中学1年生の「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合が増えていた。[図5]

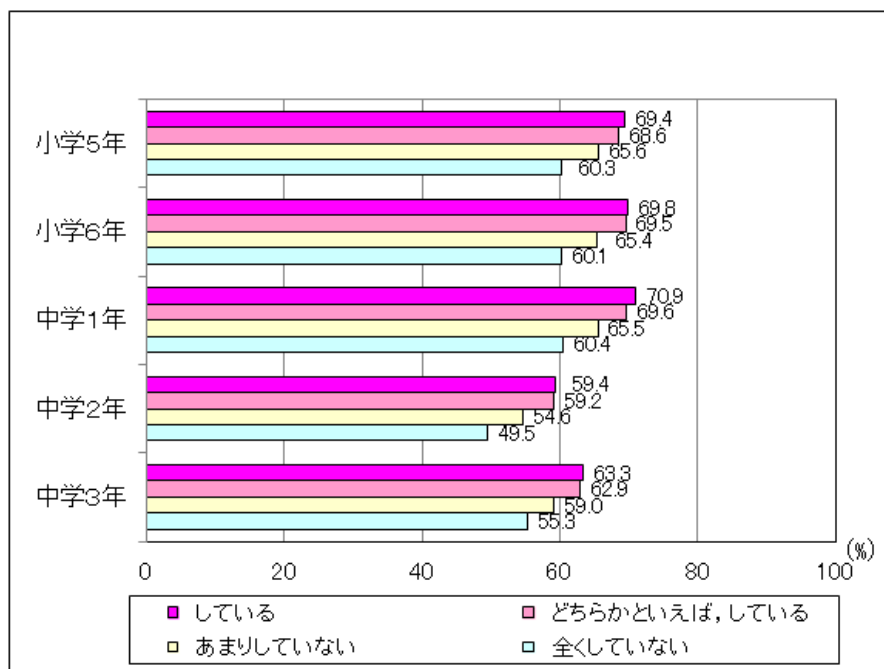


図6 「自分で計画を立てて勉強している」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率

「自分で計画を立てて勉強している」の回答状況と平成24年度の全教科平均正答率との関連から、全学年において、「予習をしている」と回答した児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。[図6]

エ 「学校の宿題をしている」についての経年比較(同一学年及び同一生徒児童)

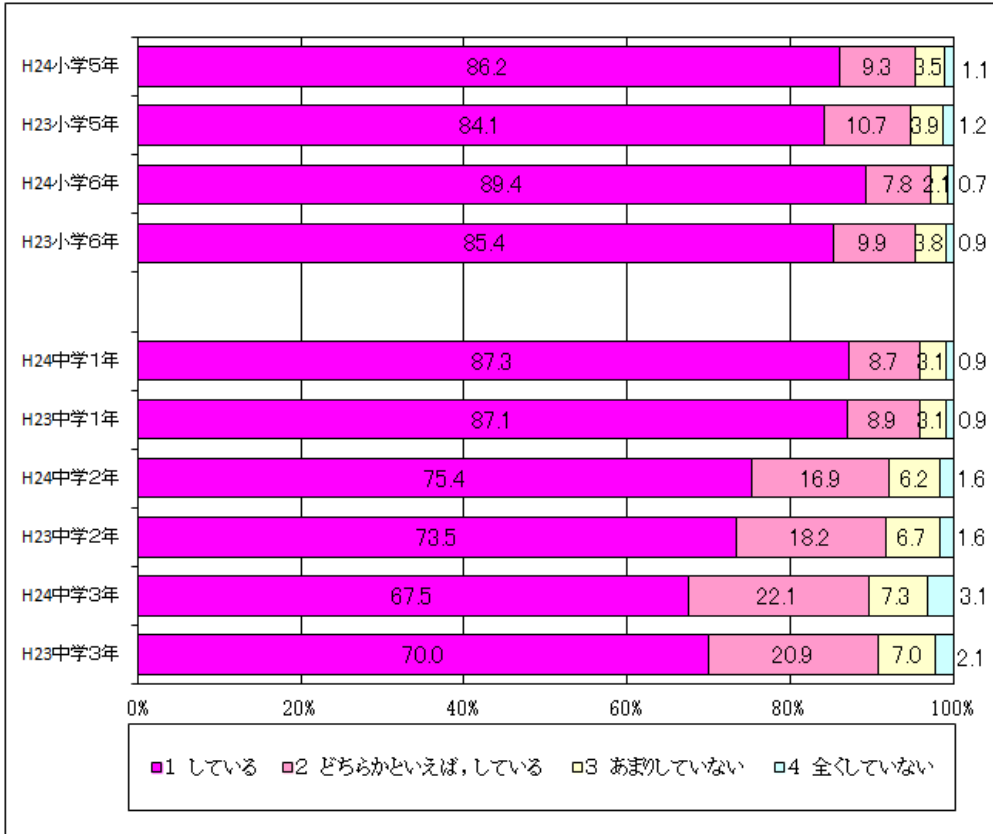


図7 「学校の宿題をしている」の回答状況の経年比較

小学6年から中学3年まで学年が上がるごとに、「している」と回答した児童生徒の割合が減っていた。同一学年の経年比較では、小学5年、小学6年、中学1年、中学2年の「している」と回答した児童生徒の割合が増えていた。同一生徒の経年比較では、小学6年、中学1年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合が増えていた。[図7]

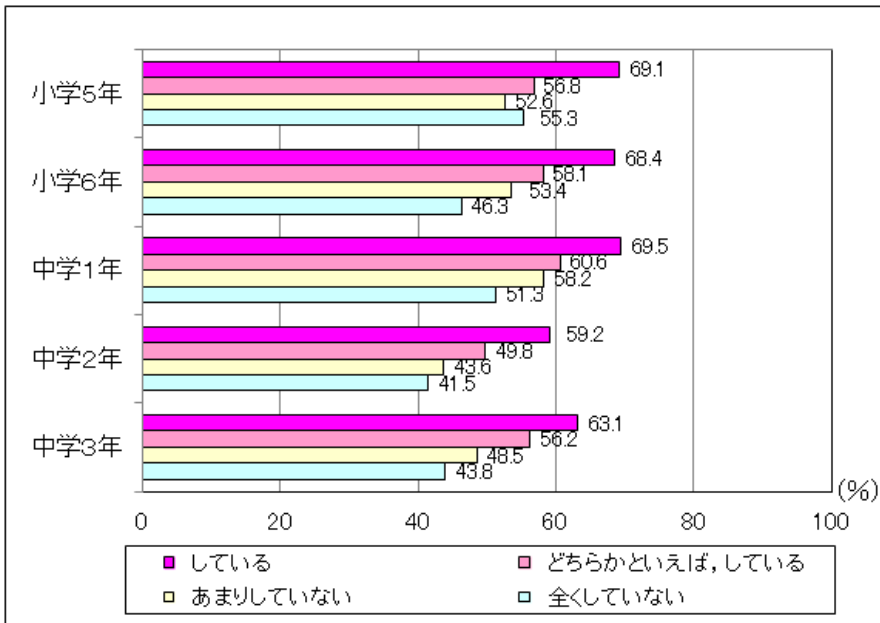


図8 「学校の宿題をしている」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率

「学校の宿題をしている」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率との関連を見ると、全学年において、「している」と回答した児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。[図8]

オ 「学校の授業の予習をしている」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

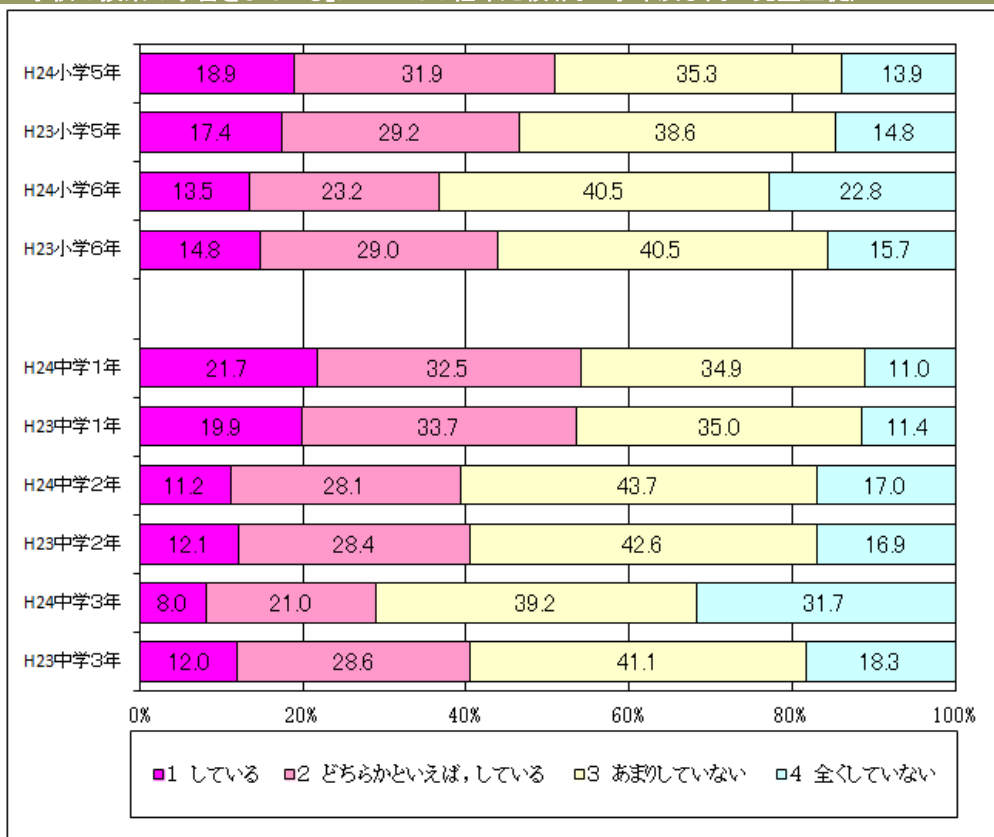


図9 「学校の授業の予習をしている」の回答状況の経年比較

学校の授業の予習について、中学1年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合が最も多い。同一学年の経年比較については、小学5年、中学1年、中学2年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合が増えていた。同一児童生徒の経年比較については、中学1年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合が増えていた。[図9]

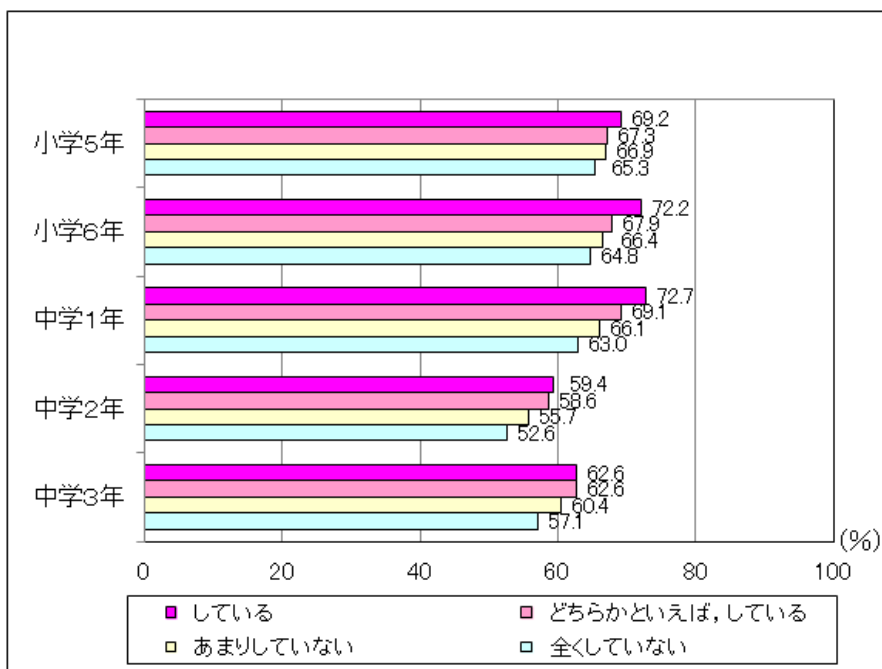


図10 「学校の授業の予習をしている」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率

「学校の授業の予習をしている」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率との関連を見ると、「している」と回答している児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。[図10]

カ 「学校の授業の復習をしている」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

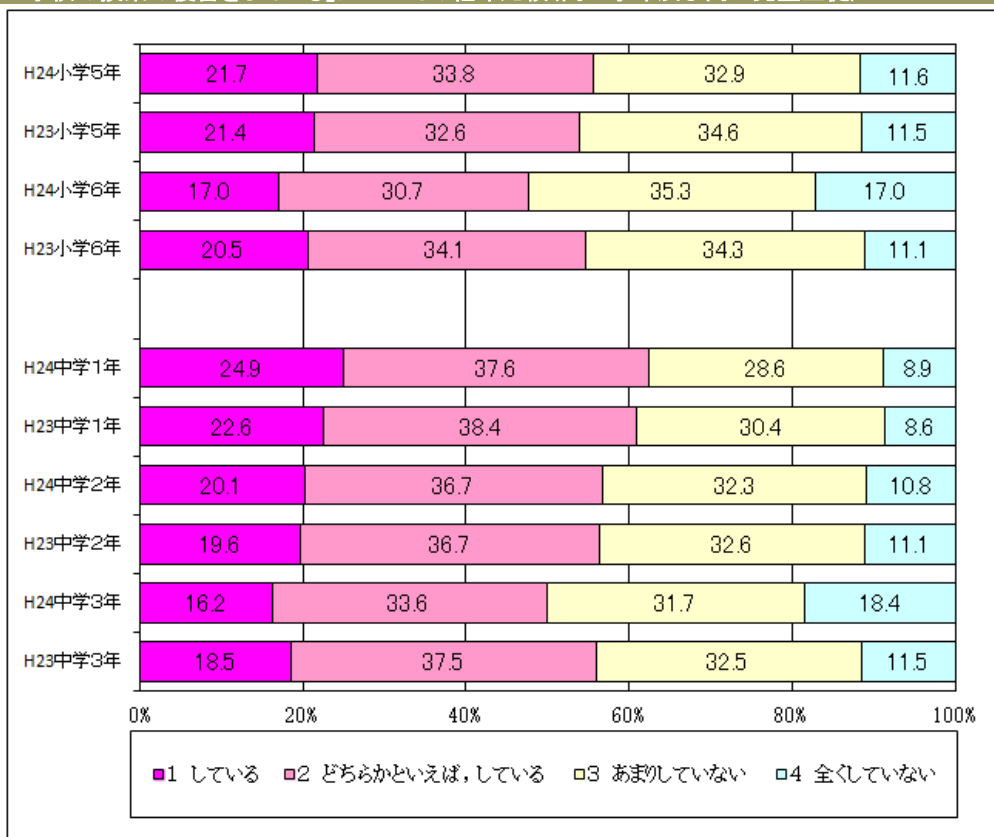


図11 「学校の授業の復習をしている」の回答状況の経年比較

学校の授業の復習について、中学1年生の「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合が最も多い。同一学年の経年比較については、小学5年、中学1年、中学2年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合が増えていた。同一児童生徒の経年比較については、中学1年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合が増えていた。[図11]

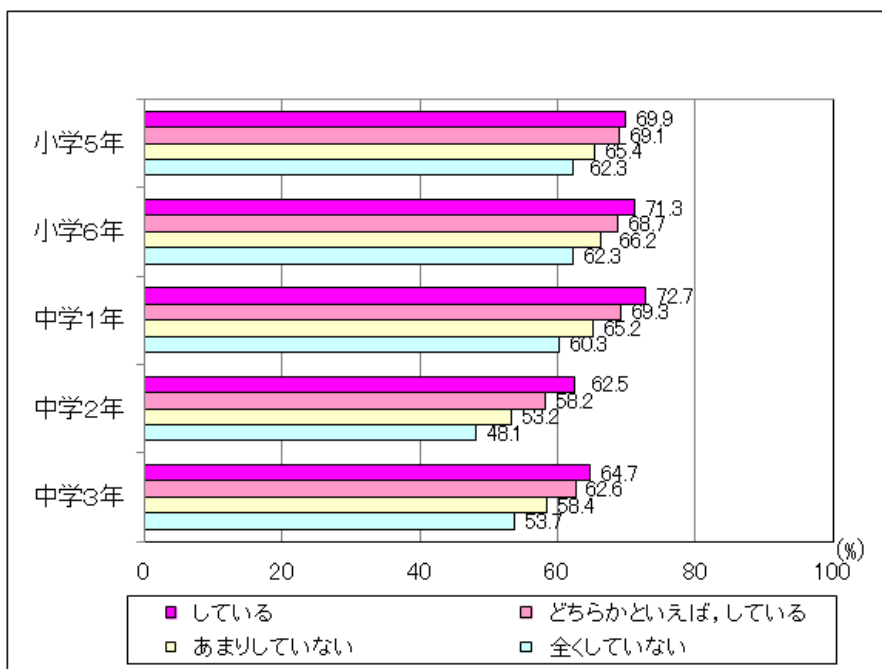


図12 「学校の授業の復習をしている」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率

「学校の授業の復習をしている」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率との関連を見ると、「している」と回答している児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。[図12]

○ これからの指導に向けて

1日あたりの家庭学習の時間についての児童生徒の経年比較では、各学年における学習時間の割合は、ほぼ同程度で、家庭学習の時間が増えていないのが現状である。自分で計画を立てて勉強をする児童生徒、特に学校の宿題、予習や復習をしている児童生徒ほど全教科平均正答率が高い傾向が見られた。そのため、自分で家庭学習の計画を立てて学習に取り組むことができるようにする必要がある。児童生徒が家庭学習の計画を考える時間を設定し、その際に、宿題、予習や復習に取り組む時間を確保し、計画的に実施することができるよう無理のない計画を立てさせるようにすることが大切であると考え。当たり前のことに当たり前に取り組むことができる児童生徒の育成を図りたい。宿題については、発達の段階に応じて、宿題の質や量、チェックの仕方、家庭学習に対する意識のもたせ方、保護者との連携の図り方等、再度家庭学習に関して見直し、改善を図って行く必要がある。

最終更新日：2012-10-15

平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ> IV 児童生徒意識調査結果の分析

IV 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ

5 生活習慣等

- 読書が好きな児童生徒は、どの学年も70%を上回っている。[図1]しかし、読書の時間について、「まったくしない」、「10分より少ない」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるにつれて増加している。[図4]
- 朝食を毎日食べていると回答した児童生徒の割合は、各学年とも8割を上回っている。[図7]また、朝食をきちんと食べている児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。[図8]
- テレビを視聴したりテレビゲームをしたりする時間が長くなるほど、平均正答率も低くなる傾向が見られる。[図13、図16]

ここでは、読書時間、テレビやゲームなど自由に過ごす時間、就寝時刻、朝食など、生活習慣全般についての設問から、児童生徒の生活習慣についての調査結果を述べる。

なお、経年を比較する際には、小学校、中学校の最高学年である小学6年と中学3年の結果を基に比較することとする。

ア 「読書は好きだ」について

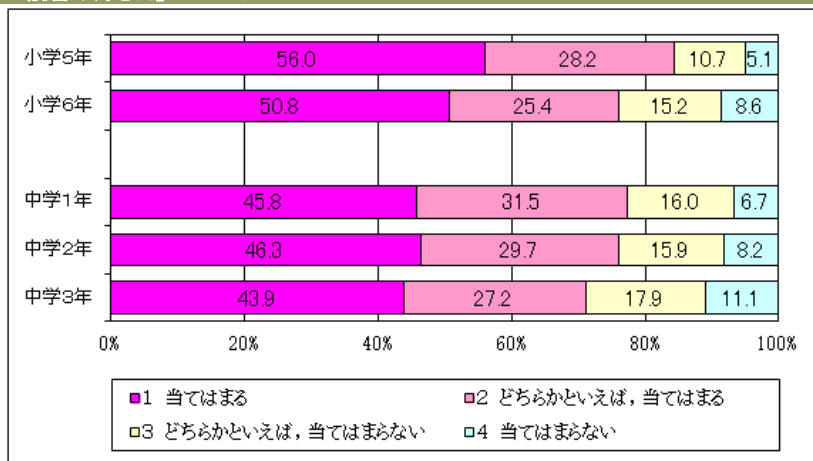


図1 「読書は好きだ」の回答状況

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学5年56.0%、小学6年50.8%、中学1年45.8%、中学2年46.3%、中学3年43.9%となっている。「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合を合わせると、全ての学年が7割を上回っている。特に、小学5年では、84.2%と最も高い割合であった。一方で、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答している児童生徒の割合を見ると、学年が上がるにしたがって、高くなる傾向が見られた。[図1]

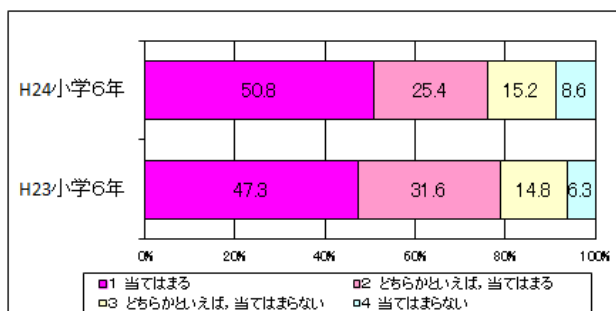


図2-1 小学6年の「読書は好きだ」の回答状況

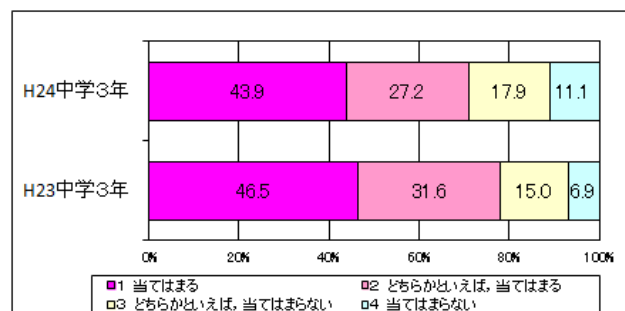


図2-2 中学3年の「読書は好きだ」の回答状況

この設問について、小学6年と中学3年を平成23年度と比べると、小学6年においては、「当てはまる」と回答した児童の割合が3.5ポイント上回った。一方で「どちらかといえば、あてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童の割合も2.7ポイント上回る結果となった。中学3年においては、「どちらかといえば、あてはまらない」「当てはまらない」と回答した生徒の割合が7.1ポイント上回った。[図2-1、図2-2]

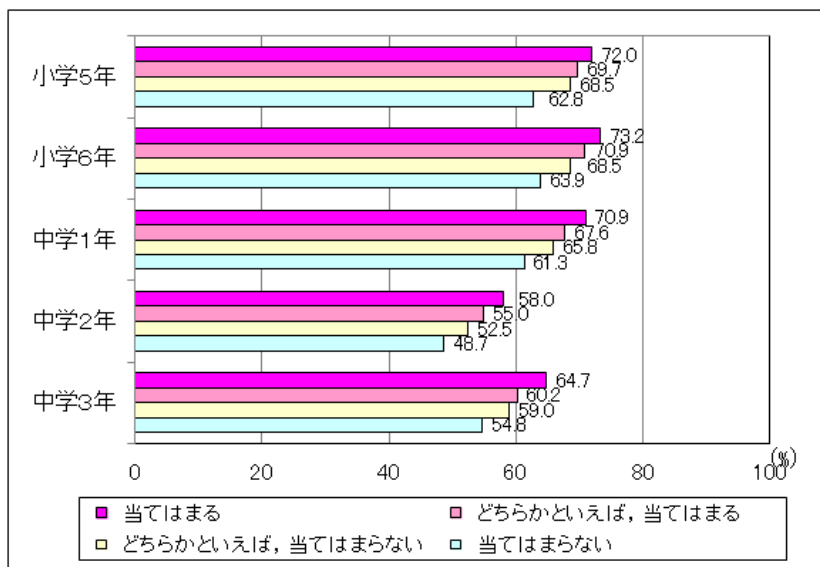


図3 「読書が好きだ」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、全ての学年において、「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。読書が好きだと感じている児童生徒ほど、平均正答率が高くなっている。[図3]

イ 「普段(月曜日から金曜日)、何時ごろにねますか」について

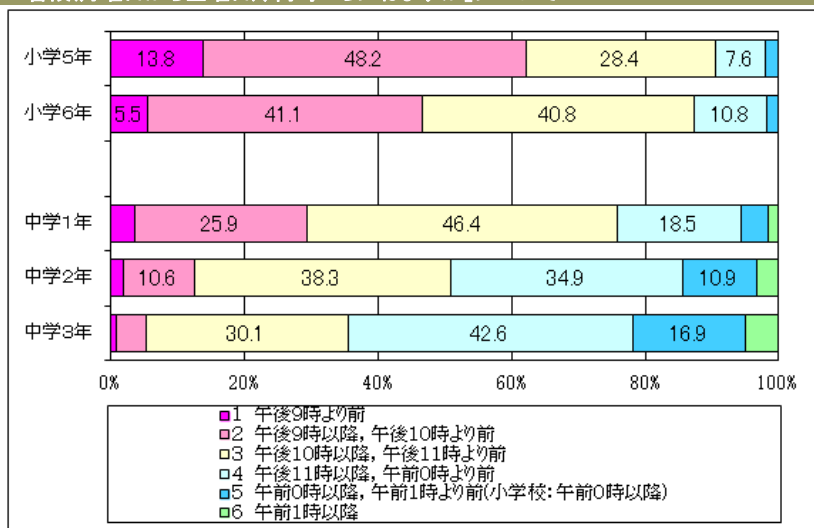


図4 「普段、何時ごろにねますか」の回答状況

小学校では、「午後9時以降、午後10時より前」と回答した児童の割合が、小学5年48.2%、小学6年41.10%と最も高かった。中学1年と中学2年では、「午後10時以降、午後11時より前」が最も高く、中学1年では、46.4%、中学2年では38.3%となっている。中学3年では、「午後11時以降、午前0時より前」が最も高く、42.6%となっている。また、午後11時以降と回答している児童生徒の割合は、学年が上がるにしたがって、高くなっている。[図4]

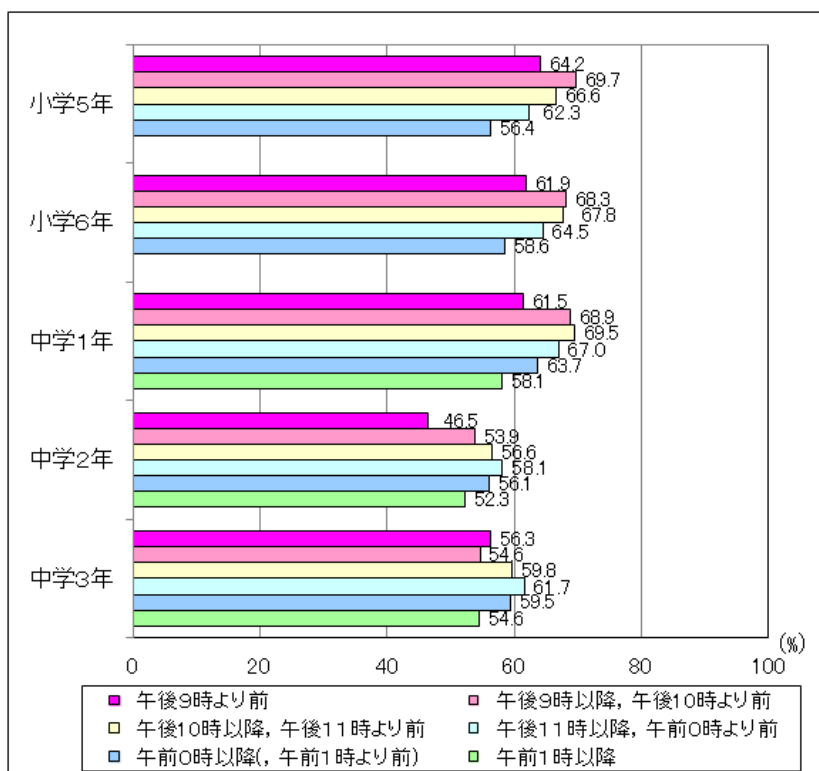


図5 「普段、何時ごろねますか」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、小学5年と小学6年では「午後9時以降、10時より前」、中学1年では「午後10時から11時までの間」、中学2年と中学3年では「午後11時から0時までの間」と回答した生徒の平均正答率が最も高くなっている。[図5]

ウ 「普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」について

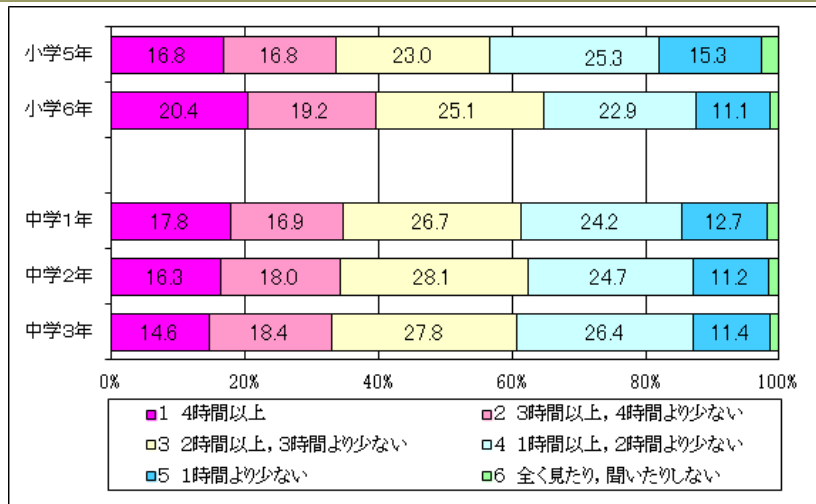


図6 「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」の回答状況

小学5年生で「1時間以上、2時間より少ない」が25.3%と最も高く、小学6年生から中学3年生では「2時間以上、3時間より少ない」が最も高く、小学6年25.1%、中学1年26.7%、中学2年28.1%、中学3年27.8%となっている。また、小学校では、学年が上がると視聴する時間が長くなる傾向があるが、中学校では、逆に短くなる傾向が見られる。[図6]

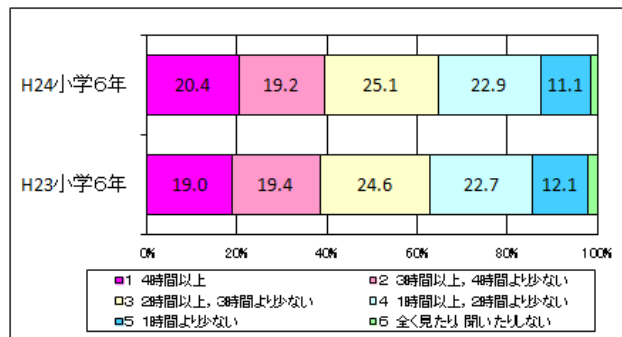


図7-1 小学6年生の「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビやDVD等を見聞きますか」の経年比較

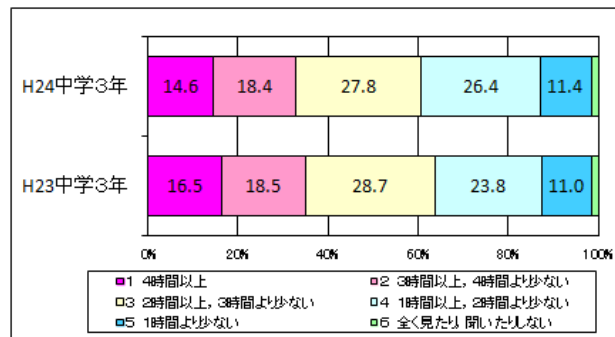


図7-2 中学3年生の「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビやDVD等を見聞きますか」の経年比較

この設問について、小学6年と中学3年を平成23年度と比べると、小学6年、中学3年共に、テレビやDVD等を視聴する時間は、中学3年では4時間以上の割合は低くなっている。全体的には、小学6年では、視聴する時間は増加しており、中学3年では減少している。[図7-1、7-2]

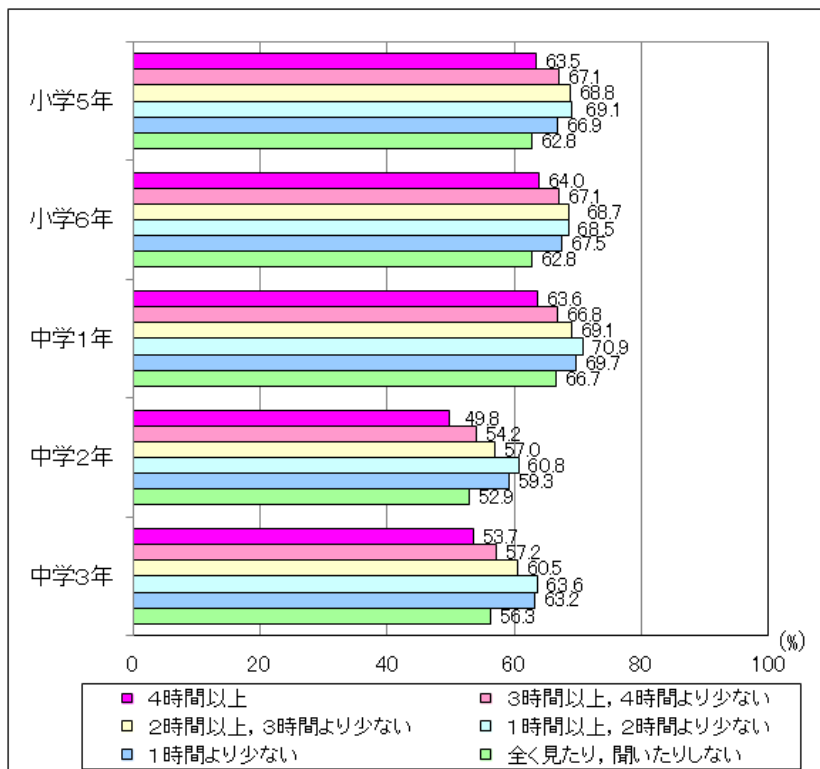


図8 「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビやDVD等を見聞きますか」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、小学5年と小学6年では、「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童の平均正答率が高くなっている。中学校では、全ての学年で、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した生徒の平均正答率が高くなっている。また、小学校、中学校共に、「4時間以上」「全く見たり、聞いたりしていない」と回答した児童生徒の平均正答率が低くなっている。[図8]

エ 「普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれぐらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲームをふくみます。)をしますか」について

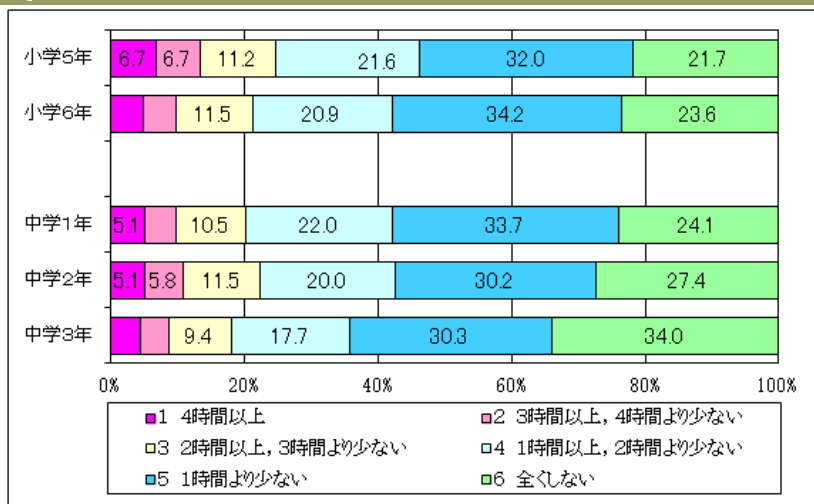


図9 「普段、1日あたりどれぐらいの時間、テレビゲームをしますか」の回答状況

どの学年においても「1時間より少ない」と回答している児童生徒の割合が最も高く、小学5年32.6%、小学6年34.2%、中学1年33.7%、中学2年30.2%、中学3年30.3%となっている。また、小学校、中学校ともに、学年が上がるとテレビゲームをする時間が減少する傾向が見られる。[図9]

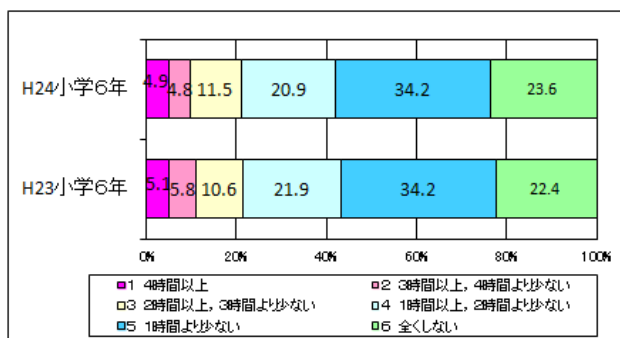


図10-1 小学6年生の「普段、1日あたりどれぐらいの時間、テレビゲームをしますか」の経年比較

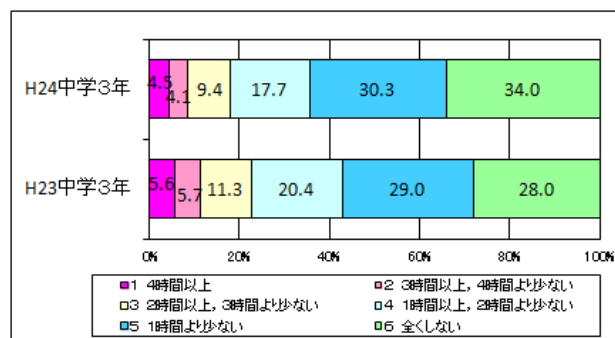


図10-2 中学3年生の「普段、1日あたりどれぐらいの時間、テレビゲームをしますか」の経年比較

この設問について、小学6年と中学3年とで平成23年度の調査と比較すると、小学6年、中学3年共に、テレビゲームをする時間は減少している。[図10-1、図10-2]

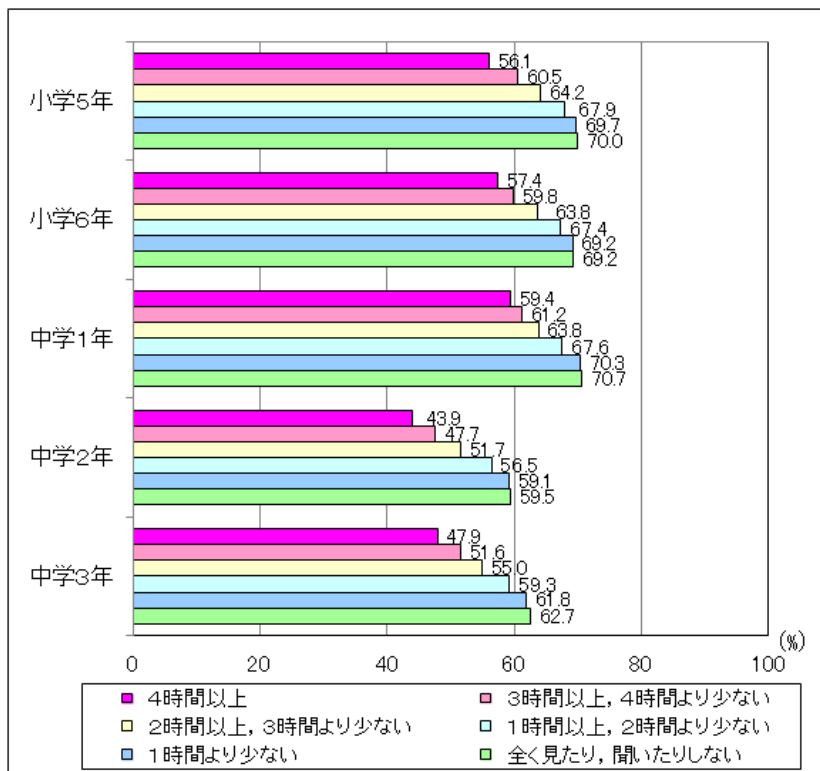


図11 「普段、1日あたりどれぐらいの時間、テレビゲームをしますか」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、全ての学年において「全くしない」または「1時間より少ない」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高く、ゲームをする時間が増えるにしたがって、平均正答率も低くなっている。[図11]

○ 今後の指導に向けて

読書については、学年が上がるにつれて読書が好きだと感じている児童生徒の割合が減少する結果となった。「PISA2009の課題を受けた今後の取組」[※1]の中で、「子どもの読書活動の推進」を挙げている。そこでは、家庭、地域、学校における取組の一体的推進を掲げている。今回の調査結果を見ても、読書が好きだと感じている児童生徒ほど高い正答率を示していることから、読書をするのが学力の向上により影響を与えていることがうかがえる。今後もより一層の読書の定着を図る上において、朝の10分間読書や読書週間の設定、家庭・地域との連携による読書習慣の確立、学校図書館等の環境整備など、取組の工夫改善が望まれる。

就寝時刻については、家庭学習の時間や読書時間のことを考えると、早ければよいというわけではない。しかし、極めて遅い就寝時刻は、「授業に集中できない」「学習意欲が湧かない」といった学習意欲に悪影響を及ぼしている可能性があると考えられる。各学年の状況に応じて、帰宅してから就寝までの時間の有効な使い方について、家庭との連携を図りながら指導していくことが望まれる。

テレビゲームをする時間については、ゲームをする時間が増えるにしたがって、全教科平均正答率が低くなっていることがうかがえる。ゲームに夢中になった結果、家庭学習の時間の確保や生活の悪循環などの課題を抱えている可能性があると考えられる。そこでテレビゲームが身体や生活に及ぼす影響を考えさせた上で、家庭との連携を図りながら指導していくことが望まれる。

最終更新日：2012-10-15